

えちぜんこくふかんれんいせき
23. 越前国府関連遺跡

所在地：市内6ヵ所で実施（表1のとおり）

調査原因：越前国府関連遺跡発掘調査事業

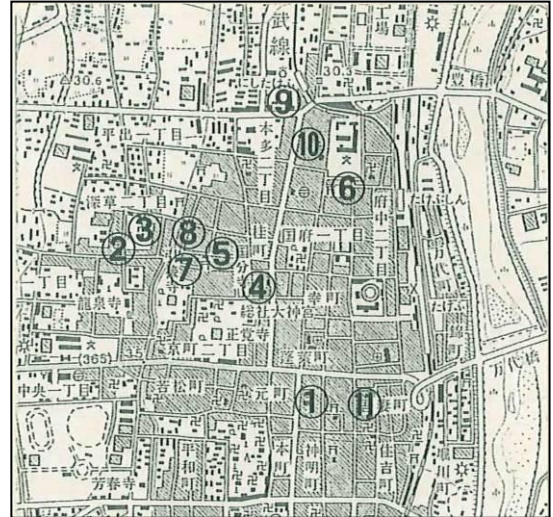
調査期間：平成22年6月1日～

平成23年3月31日

調査主体：越前市教育委員会

調査面積：297.5㎡（6ヵ所合計）

時代：古代～近代



位置図（S=1/25,000）

調査の概要 平成20年度から5ヵ年計画で実施されている越前国府関連遺跡調査事業も、昨年で3年目を迎えることになりました。昨年度は、越前国府関連遺跡が存在する可能性の高いエリアの中で、6ヵ所の調査を行いました。ここではその内、遺構、遺物の検出された4ヵ所について報告します。

地点1 この地点は越前市中央図書館の東隣に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲には含まれていませんでしたが、高瀬二丁目遺跡のすぐ傍ということもあり、調査を実施しました。調査の結果、明黄褐色の地山層が検出され、その面から平安時代の住居跡などが発見されました。他にも柱穴、土坑、溝跡なども見つかりましたが、面積の割に出土遺物は少量でした。

地点3 この地点は周知の埋蔵文化財包蔵地でいうところの国府遺跡の範囲内に該当しません。調査の結果、現状地盤から約130cmの深さより遺構が検出されました。検出遺構は溝跡、土坑等が見られ、埋土からは土師器皿、越前焼などが出土しているため、年代は中世～近世であると考えられます。

地点4 この地点は越前市公会堂記念館のすぐ東側に位置しています。現状地盤から約50cmの深さより茶褐色の地山層が検出され、その面から溝跡、柱穴などが発見されました。遺物は土師器皿や越前焼などが主体であるので、時代は中世～近世と考えられます。

地点5 この地点は越前市役所のすぐ北を走る大正通り沿いに位置しています。調査の結果、現状地盤より40cmの深さで明黄褐色の地山層が検出され、その面から柱穴や溝跡などが発見されました。調査区の西側で発見された大溝は、深さが現状地盤から2m近くまで達する大規模なもので、調査区の半分近くを占めていました。この大溝は大規模なものであること、検出された遺物の多くは須恵器や土師器など古代のものでしたが、最下層より土師器皿などが検出されていることなどにより、中世に行われた比較的大規模な開発（府中城築城か？）に伴う遺構と考えられます。

まとめ 平成22年度の調査では主に中世～近世の遺跡が発見されたものの、国府に関連する遺跡は発見されませんでした。しかし、地点1は高瀬二丁目遺跡の東隣に位置しており、

遺物の時代から、高瀬二丁目遺跡とほぼ同時代の遺跡と考えられます。住居の規模から考えると一般の集落跡と推定されますので、直接国府に関係するわけではありませんが、国府の存在していた時期の遺跡ということはありません。そして、地点1は遺跡のある場所とは認識されておりましたので、こういった歴史の空白地帯において遺跡が発見されたことは、大きな成果であったと考えられます。(野澤雅人)

表1 平成22年度調査地一覧

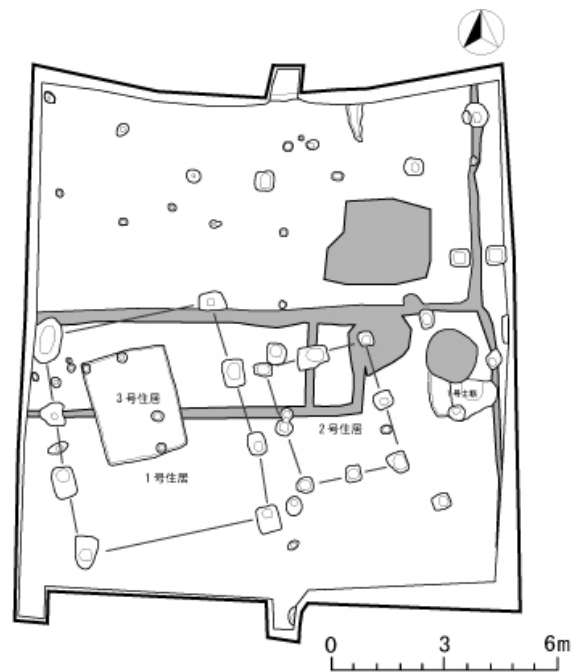
	遺跡名	年代	遺構	遺物
1	高瀬二丁目遺跡 付近	古代・近世	住居跡、溝、柱穴	須恵器、土師器
2	府中城跡	—	—	—
3	国府遺跡	中世・近世	溝、井戸跡、土坑	須恵器、土師器、かわらけ、青磁
4	府中城跡	中世・近世	溝、落ち込み、柱穴	須恵器、土師器、かわらけ、越前焼
5	府中城跡	中世・近世	溝、落ち込み、柱穴	須恵器、土師器、かわらけ、越前焼
6	府中城跡	—	—	—



地点1（高瀬二丁目）北側



地点1（高瀬二丁目）南側



地点1（高瀬二丁目）平面図